

2024 VOL.16

11/12

秋冬号

京都 便利堂 だより

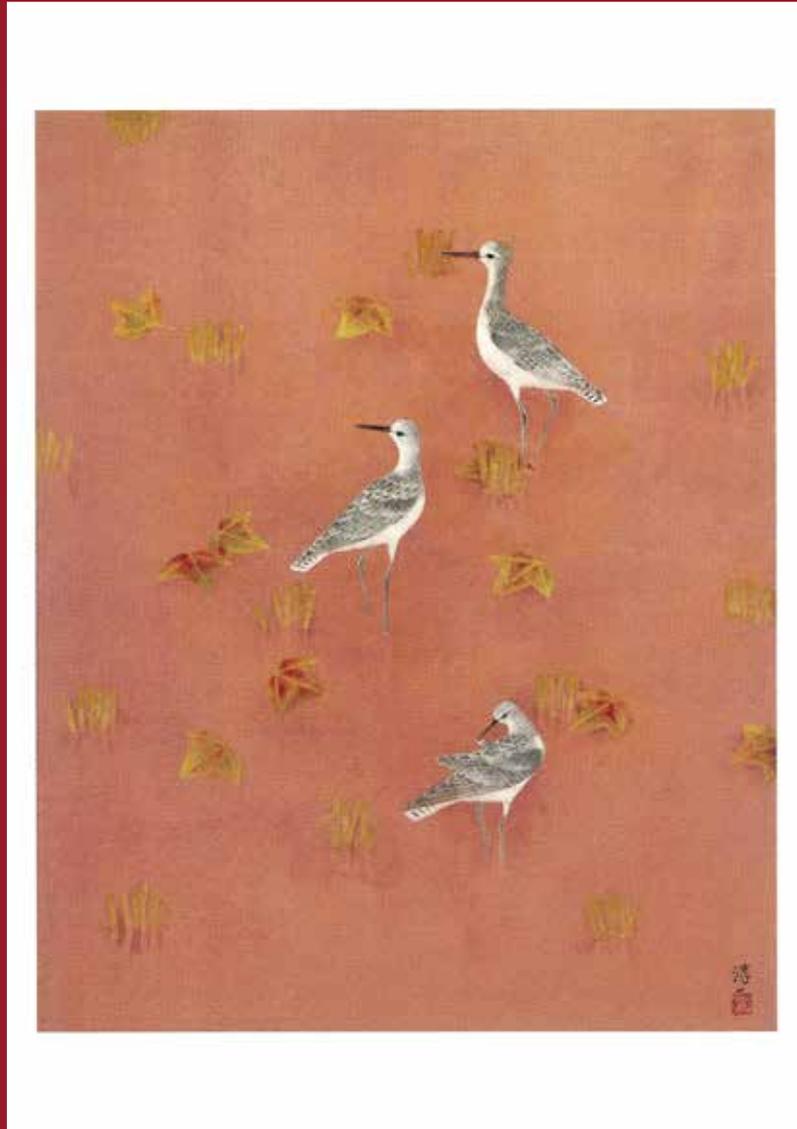
KYOTO
BENRIDO
DAYORI

アートのある暮らしで彩りを

便利堂ものづくりインタビュ―

美術はがきソムリエ

増尾麻黄さん〇日々店頭でお客さまとアートとの橋渡しに大活躍中！



【特集】季節のおすすめ商品

便利堂の年賀はがき

冬のイチオシ〇美術はがきソムリエからの定期便〈浮世絵の美〉／お年賀のオススメ商品

日本文化の美とともに
歩み続けて138年





絵はがきをお探しになるとき、まず「便利堂さんなら」と認知していただいていることはありがたいなあと思います。

象に残っていました。まさか自分がお店の店長になるなんてその時には思いもありませんでした。：

—— きっとご縁があったんですね。本店には壁一面に絵はがきがディスプレイされています。実はこれを始めたのは富小路店の前身である最初の直営店舗、御幸町六角店からです。「うちが作っている日本全国の美術館・博物館の美術はがきをここへずらりと並べよう」というアイデアからスタートしたそうです。本来、便利堂が各館のために手作りした絵はがきはその場所ではか買えないものでしたが、我々の思いが伝わり便利堂での販売が実現したと聞いています。

—— それは絵はがきの便利堂ならではのエピソードですね。

こうした試みは日本で初めてのことです。「便利堂に来れば全国の美術館を旅できる！」とお客さまには非常に喜んでいただきました。だからこそ「どんな絵はがきでも便利堂に来たら見つかる」とおっしゃるお客さまがたくさんいらつしやいます。もちろん販売しているものは便利堂が作った絵はがきに限られますからご期待に沿えないこともあります。でも絵はがきをお探しになるとき、まず「便利堂さんなら」と

美術はがきソムリエ ●増尾麻黄さん

手ごろな商品を通じて美術をより身近に親しんでいただきたい。企画・デザインから制作まで、妥協のない姿勢で取り組んでいる便利堂のものづくりの裏側を、作り手の声でご紹介していきます。

今回は、美術の豊富な知識を活かし「美術はがきソムリエ」として日々店頭でお客さまとアートとの橋渡しに大活躍中の増尾麻黄さんに、「美術はがき」の自由な楽しみ方についてお話を伺いました。

聞き手…社長室 前田千穂（7頁写真左）

京都便利堂本店
便利堂本社に2020年7月併設された直営ショップ。創業から手掛ける絵はがきをはじめ、コロタイプ工房で作られたミニポートフォリオ、書籍や精緻な縮小巻物・縮小屏風などの美術商品も豊富にそろっています。



—— 増尾さんは長らく美術はがきギャラリー「京都便利堂三条富小路店」現在は閉店の店長をつとめられ、現在は京都国立博物館（京博）ミュージアムショップ店長、京都便利堂本店のスーパーバイザーを兼任されています。

富小路店では2010年に入社して以来、2020年に閉店するまで約10年間、店長として勤務しました。思い返せば、富小路店はとりわけたくさんの方に愛されたお店だったと思います。実は入社してから、以前自分がお店に来たことがあったのを思い出したんですよ。たしかその時に買ったのは正倉院文様の二筆箋でした。たまたまの美しい京町家で絵はがきなどの文具が売られている様子はずっと印

認知していただいていることはありがたいなあと思います。

—— 本当ですね。便利堂で扱う絵はがきは千枚を超えると聞きました。それを覚えるのは大変では？

—— いくつかの間にか…という感じでしょうか。最初は売れ筋から。レジに持ってきてくださるものを見て覚えたものもたくさんあります。便利堂は壁に並んだ中から、お客さまが先入観なしに気に入ったものを選んでいただくスタイルですから、それを見て「これってどんな作品やったっけ？」とそのつど調べ直したりしつつ覚えた気がします。そういえば、店舗で働くスタッフで受け継がれてきたファイルが何冊もあるんですよ。

—— どんなファイルでしょう？

—— 作品に描かれている花の名前、鳥の種類、何の虫か、季節はいつ頃か、あとは見てほしいポイントや作品を描いた作家のエピソードもあるかな。それをスタッフで共有してお客さまへのご案内に活かしています。お客さまが作品についてもっとお知りになりたいときにきちんとお答えしたいですからね。とはいえ、私は作品の正しい知識は横へ置いて、美術はがきとしてどこが見どころか…という方をより大切に

しているかもしれません。「なにこれ、おもしろい顔してはるやん」「どこ見てるん？」とかね。そういう意味で、みんながいいという名作をそう思うなっていていいとも思っています。

—— 本店でも京博でも、便利堂ではお客さまの滞在時間が長いですよ。

—— お越しになるお客さまのほとんどが、自分の琴線に触れる1枚に出会うため、じっくりと店内をご覧になるんです。絵はがきを選ばれる方はとりわけそうですね。京博ではそこにプラスして展覧会を見た感動も加わります。自分だけの1枚に出会った瞬間のお客さまの反応は何度見てもすごうれし



いもので、これまでそんな瞬間をたくさん見せていただけてきました。これからでもできるだけ多くの方にそんな経験をさせていただけるお店作りをしたいと思っています。

——ところで増尾さんが美術に興味をもったきっかけはなんですか？

それが実は1枚の絵はがきなんです。よ。中学生の頃、ある日、なんの前触れもなく、イタリア旅行中のいところが送ってくれた絵はがきを手元に届いたんです。私のために書いてくれた絵はがきにはいっぱいスタンプが押されていて、見たことのない切手が貼ってあり、世界のいろんなところを通ってきたからか、はがきの角が丸くなっていました。その体験に中学生だった私はなんだかものすごく感激したんですね。絵はがきに描かれていたラファエロの《小椅子の聖母》は今も私にとつて大切な作品で、この出来事をきっかけに美術に興味をもつようになりまして。この絵はがきは今でも自分の原点だと思っています。

——つくづく絵はがきにご縁がありますね。「美術はがきソムリエ」としてご活躍なのにも納得しました。

2013年に便利堂が出版した絵はがきにまつわる書籍『明治の京都 て

難しかったですね。1年間毎月お届けするので、季節感を大切にしました。テーマ選びにも苦労しましたし、テーマが先かラインナップが先かにも頭を悩ませました。一方で喜びもありましたね。毎月10枚のなかへカラーコロタイプはがき《季節五題》シリーズを1枚選んでお届けするのですが、お客さまへこの絵はがきをもれなくお渡しできるのがとてもうれしかったです。というのも、シヨップスタッフの一人として季節五題シリーズの作品選びを担当したんです。

——知りませんでした。

2011年に、便利堂ではお客さまに印刷技術「コロタイプ」へ興味を持っていただきたいという思いからカラーコロタイプの絵はがきを作ることになりました。シヨップスタッフからもたくさん案を出し、ちょっと高くなるけれど「おや、何かほかと違う？」とわくわくしていただけの1枚を作ろう。



こうした便利堂ならではの絵はがき群を 独自に特徴付けようとして生まれたのが、 この「美術はがき」という呼称です。

いどこから届いたラファエロの
《小椅子の聖母》絵はがき



のひら道通」へ「お客さまが納得の1枚に出会えるよう、時にはお客さまと頭を抱えながら『美術はがきのソムリエ』を目指して奮闘しています」という一文を寄せたところ、「美術はがきソムリエ」が定着しました。誰が言い始めたんだろう？ と思ったら自分だったんですよ(笑)。

——便利堂では美術モチーフの絵はがきを「美術はがき」と呼んでますが、一般的な言葉ではないですよ？

便利堂の造語です(笑)。2003年に御幸町店を立ち上げた時に命名されました。便利堂は明治時代から絵はがきを製造販売してきましたが、特に美術モチーフの絵はがきを長らくその中心に置いてきました。こうした便利堂ならではの絵はがき群を独自に特徴付けようとして生まれたのが、この「美術はがき」という呼称です。

——そうだったんですね。そのソムリエとしての新たな取り組みが「美術はがきソムリエからの定期便」シリーズです。第1弾は、毎月ユニークなテーマを設けて、それにちなんだ美術はがきをソムリエが10点セレクトするという趣向ですね。

これまでは店頭でお客さまの絵はがき選びをお手伝いしてきましたが、こ

だからこそサイズは、便利堂がコロタイプを発展させた明治の頃のはがきサイズにしよう。有名な作品でなくとも、絵はがきに収まったときにいつそう美しく見える作品を探そう。実は季節五題シリーズには開発スタッフみんなのそんな思いがぎゅぎゅつと詰まっています。

——あれは便利堂にとって特別な絵はがきですよ。

それまでも季節の絵はがきはありませんでしたが、より便利堂らしい視点で作ろうと始まりました。図版探しに毎週大学図書館へ通ったり、東京の展覧会へ足を運んだり、当時はまだネット上のアーカイブが充実しておらず、よい作品を見つけてもどこの所蔵かがわからなくて苦労しました。「季節五題」とは「それぞれの季節に展開する5種類の絵はがき」という意味の造語です。一言に「夏」といっても7月と8月は違うし、初夏と盛夏の間にもいろんな季節がある。サブタイトルにつけた「なつはじめ」「なつさかり」「はるうらら」などは、季節を愛する日本ならではの感性を大切に考えました。

——あの言葉で雰囲気や季節感がいつそう思い浮かびます。

実は当時、スタッフの間では「嵐を

秋

京都便利堂のコロタイプ季節はがき

季節五題

全40種 385円



あきそまる



あきみのる



ふゆしずか



ふゆこもり



明治時代に日本に根付いた印刷技法「コロタイプ」は、明治・大正・昭和初期にかけて発展しました。この技術に同年代の近代作品と四季折々の風情を掛け合わせるをコンセプトに生まれたのが《季節五題》です。

〈はるかおる〉〈はるうらら〉
〈なつはじめ〉〈なつさかり〉
〈あきそまる〉〈あきみのる〉
〈ふゆしずか〉〈ふゆこもり〉
の8シリーズ各5種



三条富小路にあった便利堂の店舗(明治37年頃)。当初は書店だったが、この年から始まった日露戦争を機に興った「絵はがきブーム」により、翌38年から本格的に絵はがきを手掛けるようになる。



枚でも充分に見ごたえがあつて、10枚揃つての特別さもある。そんな思いから、この10枚はこだわりぬいた10枚です。そうそう、定期便には絵はがきと一緒に解説もお送りしていますよね。この機会に私たちもあらためて作品を学び直し、作家のバックボーンを洗うことで、見方が変わった作品がたくさんありました。「この絵を描いていたときそんな苦労してたん？ 難儀やつたねえ」なんて気持ちになつたりとか。

さて、定期便シリーズの第2弾として、現在〈浮世絵の美〉が好評進行中です。来年は大河ドラマでも浮世絵の世界が舞台になりますから、まさに熱いテーマですね。

作らなあかん」と話していました。そう、お手本はアイドルのあの「嵐」ですから。一人ひとりでも立派に主役を張れるけれど、5人そろつた時の特別さも大切だと。だから5枚の絵はがきのおさまり具合にはみんなですごくこだわりました。そうやって色合わせや並べたときのバランス、個性も何一つあきらめずにできたのが季趣五題です。職人さんもお苦労なさつたと聞いています。色を出すのが大変だつたのだとか。

大変さとともに自信作だということが伝わってきます。

実は定期便第1弾でも、季趣五題を作つたあの感覚を踏まえています。1

も眺め足りないくらい。
定期便〈浮世絵の美〉には浮世絵のそんな楽しさが詰まっています。



第1弾とはまたちがつた面白さがありそうです。

〈浮世絵の美〉は、全6回のミニシリーズとなつており、気軽に始めていただけるのも魅力です。またお届けする絵はがきには、これを機に制作された新作が含まれているのもおすすすめポイントです。新商品絵はがきのニューズに社内は沸き立ち、あれも欲しい、これも入れたいと声が上がりました。定期便第2弾では、そんなみんなの希望が形になった新作はがきを店頭より一足早くお届けいたします。たとえば川瀬巴水の《芝増上寺》は巴水と言えばこれ！という作品ですが満を持して出来上がり、浮世絵マニアのみならずからも「待つてました！」のお声が聞こえてきそうな気がします。浮世絵にちよつと興味がある方、浮世絵ファン

絵はがき〈芝増上寺〉川瀬巴水
(定期便4月号収録)



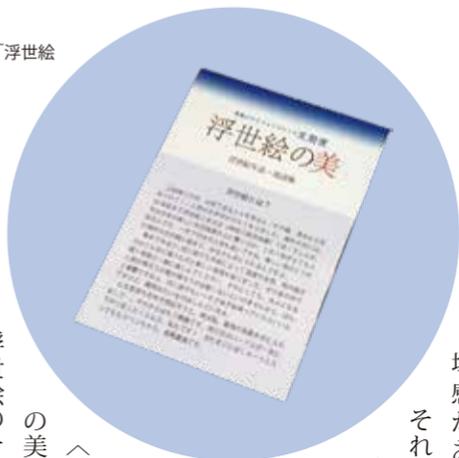
ど真ん中の方、どなたにも刺さるラインナップで自信をもってお届けしますよ。

この定期便がご自分の好みを知る機会になったり、美術にはまるきっかけになったらうれしいですね。



毎号の付録、やさしく浮世絵の世界を解説した解説

初回お届け特典の「浮世絵年表・用語集」



と横のつながりや時代ならではのおもしろさ、浮世絵の精神が新版画へと受け継がれるさまざまなビジュアルアップ

年表の裏側にまとめた用語集もわかりやすいですね。手前みそになりますが、年表、用語集、そして解説を合わせて「これは浮世絵図鑑と銘打つてもよい奥深さではないか」と、そつと胸を張っています。絵はがきを眺める楽しみはもちろんですが、こうした特典をご覧いただく、知的好奇心がさらに刺激されるのではないのでしょうか。

浮世絵の奥深さを
どんぶんに楽しみいただけるのが
この〈浮世絵の美〉です。

美術はがきソムリエからの定期便

詳しくは、本誌11、14頁並びに専用サイトをご覧ください。



気になつた浮世絵師はいましたか？

浮世絵といえば…の歌川広重ですが、今回《東海道五十三次》を改めて見てみると、とにかく彼は食いしん坊なんですよ。「この人めっちゃ食べるん好きやん」と思いました。新たな発見という意味でも、定期便は付録の解説とあわせてお楽しみいただく、ぐぐつと世界が広がっていくはずですよ。

浮世絵の楽しさってどんなところでしょうか？

そうですね：作品そのものの美しさ、ユニークさはもちろんのこと、彫師、摺師など職人たちの圧倒的な技術にも息を飲みます。鮮やかな色使いにもはつとさせられますし、空摺、雲母摺などの技法が施されていると、なんと豪華なことかため息がもれます。浮世絵って絵師だけでなく、何人ものプロの技が1枚にぎゅーつと凝縮されているんですよ。浮世絵は誰もが知るところの北斎の《神奈川沖浪裏》や写楽の《三代目大谷鬼次の江戸兵衛》だけではありません。画面上には江戸の庶民の洒落と粋がパワフル全開で展開されていて、その大胆で繊細な作品たちは眺めても眺めて

ています。私たちも当時の様子を思い浮かべてわくわくしていますから、ぜひ一緒にわくわくしていただけたいですね。

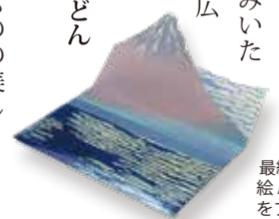
定期便シリーズは美術はがきソムリエの真骨頂ですね。

店頭ではお客さまのリクエストがあれば私たちも一緒に楽しむのですが、それを店頭でなく、お手元で体験していただくのが定期便が定期的な楽しみになると思います。

私たちが絵はがきを見てくすぐす笑ったり、おもしろいポイントを見つけてときめいたりしているのを、定期便の解説では垣間見ただけではありません。この定期便がご自分の好みを知る機会になつたり、美術にはまるきっかけになつたらうれしいですね。これからもお客さまと美術、その橋渡しをたくさんしていければと思っています。



※過去にメルマガで配信したインタビューのバックナンバーはこちら



最終お届け月には〈浮世絵A5変形クリアファイル〉をプレゼント！

お歳暮

12月13日から12月20日

「手紙なんてちょっとおかげさかな。」でも、感謝やお礼、ともに喜び合うお祝いの気持ちなど、ときには手書きではがきやメッセージカードにちよつと季節の言葉を添えて送ってみてはいかがでしょう。折々の季節のごあいさつをご紹介します。

お歳暮のルーツ

「暮れ」の元氣なごあいさつ「お歳暮」は最近とみに減ってきたように感じますが、今もその習慣を知らない人はいません。このお歳暮が日本に根付いたのは江戸時代頃。それまでは、年末にご先祖様の霊をお迎える「御霊祭」と呼ばれる行事に、妻の実家や分家からお供え物を持参する慣習がありました。江戸時代になると、さらに商人がお盆とお正月に掛売り代金の回収を兼ねて得意先に贈りものをするのが広まり、武士の世界でも自家の組頭に年末に贈りものを行うことから、それらが総

合して現在のようなお歳暮の習慣が定着したと考えられています。

お歳暮のマナー

お歳暮の時期は、「正月事始めの日」である12月13日から12月20日まで贈るものとされてきましたが、近年は関東地方を中心に時期が早まる傾向にあり、11月下旬には品物を贈ることも増えてきています。本来は直接伺って手渡しするものですが、近年は発送で済ますことが多いですね。その際に欠かせないのが「添え状」です。品物だけではなく感謝の気持ちを文面に込めましょう。また、お歳暮は1回限りではなく、毎

年感謝を伝えることを前提に贈り続けるものです。そして贈られた際に「お返しは不要です。お礼状」で先方への感謝を伝えましょう。なお、お歳暮は双方が喪中の場合でも贈ってよいとされています。

これからのお歳暮は？

時代とともにお歳暮文化が変化するのは致し方ありません。けれども、義務感からではなく日頃の感謝を込めた贈りものをする機会と捉えれば、お歳暮は日本ならではの良い慣習です。京都便利堂では、添え状にもお礼状にも最適な絵はがきやレター商品を多数揃えております。

【カードの文例】



《笛吹く子》谷内六郎

お礼状・添え状に最適

実用的な（余白のある絵はがき）



（SHIHO 便利堂）
便箋セット ¥880



美術はがきソムリエからの定期便

- 毎月〈ふみの日〉に絵はがき 10 枚を 1 年間お届けします。
- 月々わずか 1,200 円（税・送料込）
■年間 14,400 円：月々 1,200 円（税・送料込）×12 ヶ月※
- 毎回、コロタイプ絵はがき〈季趣五題〉（385 円）が必ず 1 枚入っています。
- 定価 1,675 円の約 28% off（通常はがき 4 枚分お得）
- 特典も盛り沢山！
① 毎回、お届け作品をやさしく解説した〈特製ブックレット〉付き



- ② 年間一括払いでのお申し込みの方には、初回月に絵はがき立てをプレゼント（先着 100 名様）
- ③ さらにめれなく 2 大プレゼント
◆ 11 月に、〈わたしだけの絵はがきカレンダー 2025〉
◆ 最終お届け月に、全 120 枚が収納できる〈定期便特製コレクションボックス〉

※途中解約はいつでも可能です。月々払いはクレジットのみとなります。くわしくは専用サイトをご確認ください。

毎月のお楽しみ●「美術はがき」がある暮らし

美術はがきソムリエからの定期便

毎月ふみの日にソムリエが厳選した美術はがきが 1 年間ご自宅に届きます。

12月〈はなむけの一葉〉



1

11月〈烏兔匆匆〉



2

くわしくは専用サイトから

- 1 《わが世の春》竹久夢二 竹久夢二美術館
 - 2 《ミノササイとナンテン》小泉勝爾・土岡泉 京都市立芸術大学附属図書館
 - 3 《元禄舞図（部分）》神坂雪佳 株式会社千總
 - 4 《先弁》三輪良平 京都文化博物館
 - 5 《鼠よけの猫》歌川国芳 東京国立博物館
 - 6 《国宝 鳥獣人物戯画 甲巻》高山寺
 - 7 《奥の細道句抄絵 暑き日を海に入れたり最上川》小野竹斎 京都国立近代美術館
 - 8 《雪へ雪ふるしずけさにをる山頭火》池田遙邨 岡山県立美術館
- 1・2 は ¥385、それ以外は ¥110

12月〈はなむけの一葉〉



3

12月〈はなむけの一葉〉



4

11月〈烏兔匆匆〉



5

11月〈烏兔匆匆〉



6

12月〈はなむけの一葉〉



7

11月〈烏兔匆匆〉



8

紅葉を楽しんだのも束の間、早くも年の瀬を感じる頃となりました。11月のテーマは「烏兔匆匆」。気付けば、あつという間に過ぎてしまいう日々。猫の手も借りたい！ いや、兎でも良い！ そんな慌ただしい時期のおすすすめたち。

12月のテーマは「はなむけの一葉」。新たな一年の始まりはもちろん、これから一步を踏み出そうというシーンにピッタリの作品ばかりです。

現在、定期便第二弾「浮世絵の美」も発売中です！ 浮世絵の世界を優しく解説した冊子付。こちらも是非ご愛顧お願いいたします。



増尾麻黄（ますお・あさぎ）：美術はがきソムリエとして、手のひらサイズの美術館〈絵はがき〉の楽しみ方をご提案します。電車に乗っていたらいつの間にか肩にトンボがとまっていた。そのまま一緒に出勤しました。店舗で見かけたらぜひお声をかけてください。

【特集】季節のあじわい商品 ●●●好評発売中

便利堂の年賀はがき

ただいま早期割引受付中！

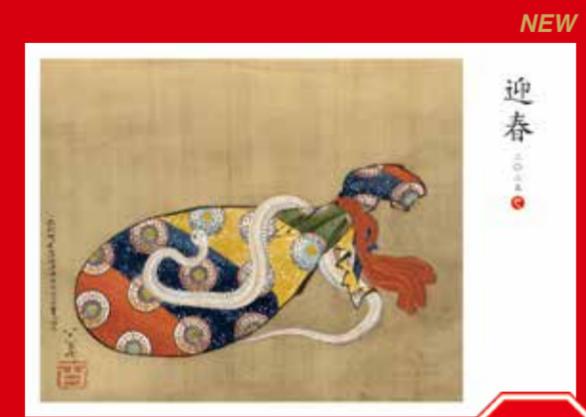
早期割引

10月1日～11月30日までは定価より
10・50枚セット↓15%OFF
※12月1日以降は定価販売のみとなります。

■定価 1枚：110円
10枚セット：990円
50枚セット：4,950円



ご予約・ご購入は
こちら



NEW

美術
千支年賀

タテ 14.8 cm
ヨコ 10.0 cm

- 1 《琵琶に并天の白蛇図》 葛飾北斎 フリーア美術館
- 2 《瑞西の玩具より》
- 3 《伏見人形と木蛇》 川崎巨泉
- 4 《梅と青海波》
- 5 《富士と松》



NEW

復刻
千支年賀

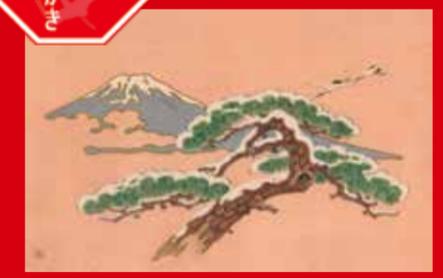


NEW



タテ 14.0 cm
ヨコ 9.0 cm

復刻
年賀はがき



NEW

美術
年賀はがき



- 6 《おもちゃ千種 第8集から でんでん大鼓、大宰府の羽子板、おしゃぶり》 川崎巨泉
- 7 《福助》
- 8 《布袋の書初め》

タテ 15.0 cm
ヨコ 10.5 cm



- 12 《太陽と松》
- 13 《鶴》

復刻
年賀はがき

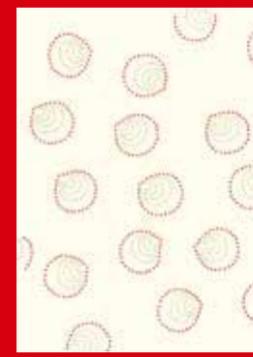


美術
年賀はがき

- 9 《子供獅子舞》 鈴木春信 足立区立郷土博物館
- 10 《書き初め》 三代長谷川貞信 関西大学図書館
- 11 《正月の床の間》 溪斎英泉 千葉市美術館

■染型撰 1枚：93円
10枚セット：825円

染型撰
年賀はがき



- 14 《桐に鳳凰》
- 15 《胡麻に松竹梅》
- 16 《松竹梅》
- 17 《宝珠に熨斗》

千支に限らずお使いいただける美術年賀はがきや復刻年賀はがきあり。



年賀状や寒中見舞い、喪中はがきにお使いいただける美術はがきあり。

■1枚：110円
長はがきは170円



浮世絵の美



美術はがきソムリエ
増尾麻黄



11月 11月15日までのご注文(11月23日頃にお届け) 〈ゆるかわ動物とおもちゃ絵の世界〉



1 〈鳥獣略画式 テナガザル〉 鍛形蕙斎 2 〈鳥獣略画式 ソウ〉 鍛形蕙斎
3 〈新ばん猫所帯まこしらへ〉 歌川国梅
4 〈しん板指のかけ糸〉 歌川政信 ほか4作品

半年間6回お届けの
ミニシリーズ!

12月 12月15日までのご注文(12月23日頃にお届け) 〈歌麿と写楽 ~仕掛け人・蔦屋重三郎~〉



5 〈歌撰恋之部 物思恋〉 喜多川歌麿
6 〈当世踊子揃 吉原雀〉 喜多川歌麿
7 〈重文 四代目松本幸四郎の山谷の肴屋五郎兵衛〉 東洲斎写楽
8 〈重文 三代目佐野川市松の祇園町の白人おなよ〉 東洲斎写楽
ほか4作品

●今後のラインナップ

- 1月 〈美人画クロニクル ~春信、歌麿から英泉へ~〉
- 2月 〈北斎と広重 ~200年前の日本の風景~〉
- 3月 〈掌の芸術 ~摺物と版本の魅力~〉
- 4月 〈幕末から明治へ ~国芳・暁斎・芳年と新版画~〉

※定期便第1弾とはすべて異なる商品を収録しています。
※内容は予告なく変更になる場合があります。

美術はがきソムリエ
安野美奈子



美術はがきソムリエの私たちが
自信を持って選びました!

増・定期便の第2弾となる新シリーズ〈浮世絵の美〉11月・12月のお届け内容のお知らせです。
安・各回8作品のうち4作品をご紹介しますよ!
増・11月のテーマは、浮世絵にみるかわいいものたちです。
安・浮世絵も後期になると肩の力が抜けて、ますます自由に筆が走るのが楽しいです。その代表が、このゆるゆるかわいい動物たちです。
増・鍛形蕙斎の《鳥獣略画式》からドーンと4点を収録しました!
安・そして、子ども雑誌の付録や子ども漫画の原点と言える《おもちゃ絵》をご紹介します。
増・そして12月は、今話題の蔦屋重三郎をテーマに、彼がプロデュースした絵師、喜多川歌麿・東洲斎写楽をフィーチャー。美人画と役者絵をそれぞれを代表する絵師です。
安・北斎、広重に並んで、超メジャーなお二人ですが、意外とその人物像を知らない気がします。
増・その辺りもたっぷり紹介しますよ。11月・12月の〈浮世絵の美〉もお楽しみください!

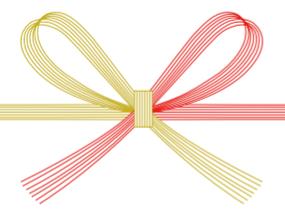
新年の挨拶回りや、おもてなしの席で配る《お年賀》。お相手に気を遣わせない程度のごくささやかな心配りの一品ですが「今年もよろしくお願ひします」の気持ちに「私の好きなアート」をひとさじ加えるのも素敵です。



年末年始のご挨拶に

「特集」季節のおすすめ商品⑤

お年賀のオススメ商品



- ① 色紙〈大黒天図〉尾形光琳 ¥1,650
- ② 懐紙〈鳥獣戯画〉全2種 ¥550
- ③ 色紙〈宝舟図〉富岡鉄斎 ¥2,200
- ④ 手ぬぐい3柄 伊藤若冲 各¥1,320
- ⑤ 絵はがきカレンダー 2025〈富嶽三十六景〉葛飾北斎 ¥1,100
- ⑥ オーガニックコットン小風呂敷 50cm〈鳥獣戯画〉全2色 各¥1,100
- ⑦ オーガニックコットン風呂敷 70cm〈鳥獣戯画〉全2色 各¥1,870

便利堂本店と便利堂オンラインショップでは《お年賀贈り》のラッピングサービスを行っております。
12月2日から25年1月15日まで



Information

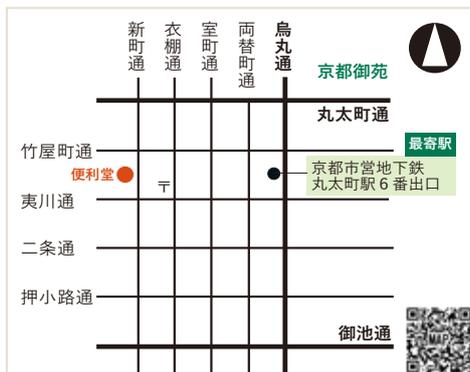
京都便利堂本店

年末は 12/27 まで、年始は 1/6 より営業いたします。

便利堂本社 1F には、美術商品を取り揃えた京都便利堂本店を開設しております。ぜひ京都にお越しの際はお立ち寄りください。

【営業時間】 10:00 ~ 19:00
【定休日】 日・祝日
【Telephone】 075-231-4351 (代表)

Instagram@kyoto.benrido
twitter@kyotobenrido
facebook@kyotobenrido.shop



【アクセス】

〒604-0093
京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町 302 番地

〈公共交通機関でお越しの方〉

- ・市営地下鉄烏丸線「丸太町」下車 ⑥番出口より徒歩7分
- ・市バス 「文化庁前・府庁前」下車徒歩5分



〈お車・タクシーでお越しの方〉

- ・京都駅から15分、お客様駐車場あります。
- ・タクシードライバーに「新町通り夷川(えびすがわ)上がる」とお伝えください。

コロタイプギャラリー

便利堂コロタイプギャラリー秋・早春季企画展示

星岡茶寮開設100年記念《雲と龍—中村竹四郎と北大路魯山人—と星岡のうつわ》展



京都便利堂本店がある便利堂本社には、年間を通じてさまざまなコロタイプ作品を展示する〈コロタイプギャラリー〉が併設されています。10月21日からは、便利堂四代・中村竹四郎と北大路魯山人が大正14年に開設した「星岡茶寮」で使用した魯山人作陶のうつわを中心に関連資料を展覧します。

会期:2024年10月21日(月)~25年3月22日(土)
開廊:10:00~12:00/13:00~17:00
休廊:日・祝日(ただし、11月17日まで無休)
入場:無料